



西村証券

チーフストラテジスト
門司総一郎の

ウィークリーレポート

2020年
6月8日
発行

第37回

「株式市場見通し」

～ 近づく相場の転換点 ～

初めに

3月の安値を起点とした世界的な株高が続いています。日経平均株価は2万2000円を回復、米国でもダウ平均株価が2万5000ドルを回復しました。今回はこの株高がいつまで続くのか、どうすれば終わるのかについて考えます。

株高の背景

まず、足元の株価上昇の理由を見てみます。単純化すれば以下のようなものです。①経済活動の再開や治療薬・ワクチンの開発が進むことにより新型コロナウイルスへの恐怖が薄らぐ、②それにより投資家がリスクをとるようになり、金融緩和で積み上がった待機資金が株式市場に流入、③株価が上昇する、といった具合です。

持たざるリスクを感じた投資家の買いが株価を一段押し上げ

株価を更に一段と押し上げたのが、持たざるリスクを感じた投資家です。空売りしている個人投資家や、運用のルール上、一定の保有割合分の株式を保有しなければならない機関投資家などは近い将来株式を買わなければならなくなりますが、このまま株高が続けばそれだけ高い所で買うことを余儀なくされます。そうした事態を恐れた投資家の買いが、足元で株価を一段と押し上げたと考えています。

株式市場の転換点は近い

以上、申し上げてきたように、ここまで株式市場は上昇を続けて来ましたが、転換点は意外に近いと考えています。ここからはその理由をお話しします。理由は①買い手不在、②米国のデモ・暴動、③景気・企業業績の3つです。

株式市場は買い手不在

先程「持たざるリスクを感じた投資家の買いが株価を押し上げた」と申し上げましたが、こうした投資家を買ったことにより、株式市場はこの先買い手不在になると見ています。株式を保有していない投資家は少なく、多くは含み益を抱えていると思われる。利食い売りはあってもここから買う人は少ないでしょう。こうした買い手不在の状況が、株式市場の転換点が近いと考える第一の理由です。

米社会不安の影響はこれから

黒人男性の死亡をきっかけとした米国のデモ・暴動は依然続っていますが、これまで株式市場で悪材料視されることはありませんでした。しかし、これはやはり悪材料でしょう。今までは需給要因で株価が上昇したために社会不安の影響が見えなくなっただけだと考えられます。しかし、社会不安は景気にはマイナスと思われること、新型コロナの再燃を許すリスクがあること、などから見てやはり株式市場にはマイナス材料であると思います。今後、社会不安が株式市場にとっての悪材料となる場面はありそうです。なお、この社会不安を含めてトランプ氏の動向が今後の波乱要因と見ていますが、これはまた改めて取り上げる予定です。

景気や企業業績にも注意

株価は大きく上昇しましたが、景気や企業業績の改善はこれからです。今後出てくる経済指標や決算発表次第では、大きなものではないにしても株価が下振れするリスクは考えておくべきでしょう。以上、3つの理由から株式市場の転換点は近いと予想しています。

西村証券株式会社 NISHIMURA SECURITIES CO., LTD.
京都市下京区四条通高倉西入立売西町65番地(本社)
TEL:075-221-9390(本店営業部)

金融商品取引業者 近畿財務局長(金商)第26号
加入協会:日本証券業協会 主な事業:金融商品取引業
指定紛争解決機関:特定非営利活動法人 証券・金融商品あっせん相談センター

本書面は特定の金融商品の勧誘を目的として作成したのではなく、あくまで情報提供を目的とした書類です。書面上の株式市場見通し等は、本書面作成時の当社予想ですが、その後の市場動向・結果・影響等について当社が保証または責任を負うものではありません。また内容については予告なしに変更される場合もあります。本書面の著作権は当社に帰属します。当社の文章による承諾なしに、第三者への配布・コピー等のご遠慮ください。